



# 「歴史」を切り口に豊橋を元気に

## 34号発行についてのご挨拶

豊橋市は来年4月1日より豊橋市制施行110周年を迎えます。また3年後の平成30年(2018年)は明治150年です。

この好機を豊橋市政に活かすために、あらためて100周年の記録誌・校区史を、「豊橋市史」「豊橋百科事典」「東三河の近代を築いた人々」を、本市採用の「歴史教科書」を調査するなかで、

### 「豊橋市制施行110周年」

### 「豊橋ゆかりの偉人を活かした教育とまちづくり」

### 「本市小中学校の社会科における歴史学習」

について議論しました。



100周年からの10年には、大災害や、本格的な人口減少時代の到来、超高齢社会、老朽化問題などにより、社会全体の価値観などに大きな変化があった。110周年では「アイラブとよはし運動」の精神は継続するが、「パートナーシップによる協働」は方向を見直す必要があろうと思うが…

### Q 「豊橋市制施行110周年」

#### (1) 100周年の成果の総括と、活用

#### (2) 110周年事業の考えた方と対応・体制

について質問し、続いて(1)と(2)をまとめ

### 110周年事業での市民参画の考え方と、事業への地域住民

の参加を促す情報提供について、議論を深めました。

### ♡ 伊藤とくやのおもい

■110周年事業では市民協働の機運を更に発展させ、豊橋のことを「知り」、市民が「つながり」、積極的に「かかわる」ことで110周年の先において自主的な活動を起こすきっかけとしたい。また、市民が参加できるイベントや逆に市民提案のイベントも受けるなど、市民、地域自治会、企業など多くの市民が積極的な110周年事業に参加、事業提案していただくことが大切であるという本市の考えをあらためて確認。

■市制施行110周年は100周年に比べれば小さな節目かもしれませんが。しかし紛れもない豊橋の110周年という歴史の節目。

■平成28年4月1日より始まる110周年では、100周年事業で生まれた自信と誇りを継続しつつもこの10年間の知恵を活かし、子どもから高齢者まで全ての市民が夢の実現に向け生き生きと暮らせ、笑顔が似合う計画とともに実施・実行に大いに期待。

■準備の時間はもう少ない。歴史を作るのだという気概を持って全力で取り組んでいただきたい。😊😊😊

江戸末期から明治にかけて、豊橋(吉田)は大変に多くの偉人を輩出しているが、今回はそのなかから3人に絞り、

### Q 「豊橋ゆかりの偉人を活かした教育とまちづくり」

#### (1) 明治随一のジャーナリスト「村井弦斎」

村井弦斎は吉田藩士の子として生まれ、新聞作家となり、100年以上も昔、明治時代にすでに「食育」の大切さを認識し推奨し、グルメ小説の先駆けと言われた『食道楽』で、森鷗外ら文豪の著作をしのぐベストセラー作家となったジャーナリスト【明治時代には(操觚者/そうこしゃ)といった】。豊橋市図書館にて企画展を開催。

#### (2) 豊川用水にて全国有数の農業王国を築いた「近藤 寿市郎」

近藤寿市郎は戦前、愛知県議会議員・衆議院議員・豊橋市長を歴任し、市政に対してたいへん多くの功績を残しているが、最大の功績として豊川用水の基となる構想を発想し、この地域を全国屈指の優良農業地帯へと変貌させた。

#### (3) 製糸業の礎を築いた「小淵志ち」

小淵志ちは戦前、製糸の町、蚕都と呼ばれるほど製糸業が盛んであった豊橋において、全国生産の8割を占めるにいたった玉爾製糸の創始者であり育ての親。近年、志ちの生涯を描いた作品「ひとすじの糸」を、演劇として上演するうねりがある。

そこで(1)~(3)の偉人について質問し、続いて全てをまとめたかたちで

豊橋ゆかりの偉人を活かした教育とまちづくりについて、議論を深めました。

### ♡ 伊藤とくやのおもい

■偉人を活かすチャンスは市制施行110周年、明治150年などと連続する。

■岡崎市図書館交流プラザ「LIBLA」は、郷土の偉人を写真・業績などとともに掲げている。本市の図書館や美術博物館はじめ教育機関は参考にさせていただきたい。

■郷土愛を育む教育や、校区愛を育む教育が本市の地方再生につながる。

■本市は多くの誇るべき先駆者を輩出している。「豊橋ゆかりの偉人を活かした教育とまちづくりに」大いに期待する。😊😊😊

## 本市小中学校の社会科における

## 歴史学習について

はじめに、

**Q(1) 近現代史の取り扱いの現状****Q(2) 倒叙的な視点で歴史の連続性を学ぶことに対する認識**

について質問し、続いて(1)と(2)をまとめ

**歴史授業の近現代教育の充実**について、議論を深めました。

**A 教育長** 歴史学習において、時代の大きな流れを捉えるために歴史の連続性を学ぶことは不可欠です。しかし、主たる教材である教科書は、古代から現代へと時代を追いながら編集されているため、現代を起点とし、さかのぼって学習することは、時代の流れを捉えにくく、また、教科書の広域採択の趣旨からも、一つの市だけで実施するには難しい側面があります。

しかしながら、倒叙的な視点に立って学習を展開することは有効な手法の一つと考えており、本市においても例えば、明治時代の殖産興業を扱う際に、本市製糸業の礎を築いた「小淵志ち」を取り上げるなど、地域にある具体から歴史の大きな流れを捉えていくように授業展開を工夫しています。

近現代史は、国際社会で我が国の役割が大きくなったことを理解させるために大変重要です。また、それ以前の時代に比べて多くの資料を手に入れやすいという利点があるためこの利点を生かし、複数の資料から自分の考えを導き出し、友達とディスカッションして考えを比較・検討することで、子どもの思考力・判断力・表現力を養い、学習内容の確かな理解を図るようにしています。

近現代史の確かな学びが公民的分野の基盤ともなりますので、今後も更なる充実に努めたいと考えています。

**伊藤とくやのおもい**

■本市の教科書巻末には、保護者の皆様へとし『社会科の大きな目標は、社会についての認識を深めるとともに、自己と他者の人格を尊重し、共に協力しながら、よりよい社会を形成していくための力を育むことにある。小学校での社会授業を受け継ぎ、地理、歴史、公民の3つの分野の学習を通して、そのような力が育つことを願って本教科書を作成した。学校だけでなく、家庭での学習や会話にも活用いただきたい。』と結んでいる。

■本市の中学生は近現代史に続いて公民を学習する。公民と言えば選挙権年齢を「18歳以上」に引き下げる改正公選法が成立し、来年夏の参院選から適用される。

■近現代史はその多くが現代に直結していることから、近現代史の確かな学びが、現代社会である公民的分野の基盤であり、喫緊の課題。

■内に外に国際化が、急速な情報化社会が進展を見せる現代、更にそれが加速する将来に向けて、我が国の近現代の歴史や現代社会の成り立ちを、社会科という教育として理解することで「社会の形成者として、社会参加して、社会の問題を主体的に解決する責任感のある豊橋っ子を育成する」ことを強く願う。本市の教育に大きく期待する。😊😊😊

## あしがき

6月議会が終わってから、公私とも兎に角忙しく活動的な毎日が続きました。また夏から秋にかけてもイベント続きで、元来お祭りやイベントが好きなので、子どものころよりの「よく学び、よく遊べ！」を実践していたのですが・・・11月はじめに突然非常に激しい頭痛に襲われました。病名は「帯状疱疹」、患部は「左三叉神経」です。

三叉神経に帯状疱疹ができたときは注意が必要で、髄膜炎、脳炎にいたるおそれもあることあるとのこと。目の中にできると角膜炎や結膜炎を併発し失明に至ることもある事ですがまさに左目です。のたうち回るほど痛くて大変でした。8日間入院しましたが、何とかスロースタート！

今は「帯状疱疹後三叉神経痛」に悩まされつつも、片目で考えることで今まで見えなかったものが見えてくる日々です。

**倒叙的な歴史教育を考える**

■倒叙という言葉はあまり聞きなれない言葉であるかと思いますが、まず結果を示し、どうしてこのような結果になったのか説いていく方法。

■推理小説では良く用いられる手法で、ミステリードラマを例とすると、最初に犯人が明かされ、主に犯人の視点で物語が展開されていく、『刑事コロンボ』や『古畑任三郎』でおなじみのアリバイ崩しもの。

■「歴史には順序があり、原因があるということが、非常に大きな要点だから、古代とか、上代とか、ポツンとはなして言う事をやめて、今あることの原因を近いところから求め、まずは近世を説かねばならない。従って歴史を教える時は、古いところから教えるのではなく、現代から過去へさかのぼって教えていく方法が良い」とは柳田国男の言葉。

■倒叙的な歴史教育は、「歴史は原因と結果の因果律」なので、「なぜそうなったのか？」を追求してゆくと、より具体的に「時代の必然性」が分かりやすい。またこの方法は連続性が途切れないので、「歴史は大きな流れである」ということを認識しやすい。

■フランスなど、海外には多くの事例がある。

■たとえば「フランス革命」が、「なぜそうなったのか？」を追求する倒叙式歴史教育をすすめるのに適した歴史的な転換点かもしれない。

■とすれば、わが国においては明治維新、敗戦とも言える。

■近年、わが国においては古代史学者として有名な樋口清之氏が、著書「さかさ・日本史」のなかで、歴史とは、ただ古い時代のことを調べるだけの学問ではなく、現在ただ今を知り、明日を洞察するための何よりの道具であり、従って「なぜ」ということを基準にして歴史をさかのぼっていく倒叙法こそ、本来の歴史の姿であると述べており、歴史を4つの時代に区分して上梓している。(名著です)

**「なぜ」ペリーは日本に来たの？時代の必然性と歴史の連続性を学ぶ**

■本市採用の教科書【東京書籍】には、ペリー艦隊が半年以上もかけて大西洋を渡る航路で喜望峰を回り、中国を経由したのちに、琉球、小笠原諸島を経て日本へ来た航路が解説されています。

■「なぜ」ペリー艦隊は一気に日本へ来なかったのか？それは、帆船を随伴していたから、補給のための寄港地が太平洋に不足していたからとされています。

■またペリー来航の理由ですが、一般的には北太平洋における捕鯨船の漂流船員救助と船舶の寄港地とされていますが、本題は中国へ進出するにあたり、その補給基地として日本が絶好の地理的位置にあったことであると、アーロン・パーマーの「日本開国計画書」の「太平洋ハイウェイ構想」には詳しく述べられています。

■当時のアメリカは1848年の米墨戦争によりカリフォルニアとニューメキシコを譲り受け太平洋岸に良港を持った、アメリカ大陸横断鉄道といった西海岸へのインフラ整備や、偏西風を利用する帆船から蒸気船への技術革新があったから、と「時代の必然性」を読み解けます。

■また「日米修好通商条約」は領事裁判権、関税自主権がないなど不平等な通商条約といわれていますが、一方で貿易では日本がアメリカより優位だったとも言われています。そして「太平洋ハイウェイ構想」は「歴史の連続性」として、後の(1978年)大平首相による「環太平洋連帯構想」や「総合安全保障」に、現在の太平洋経済協力会議(PECC)やエイバック(APEC)に結びついています。

■歴史教育の「なぜ」を解く授業の組み立ては、教師の力量が問われるところ。

■『私たち日本人は歴史を学ぶことで武装すべきである』と、私は思うのです。😊

## 発行

伊藤とくや事務所  
豊橋市松葉町 3-68  
FAX : 0532-56-5521  
TEL : 0532-53-4556  
bbito@mx1.tees.ne.jp  
携帯 : 090-3855-9696